

2003年1月31日発行



## 今回の紙面から (ページと内容)

- 1 20周年記念大会での会長挨拶
- 2 今秋の全国大会とその研究発表申込
- 3 ワークショップの企画募集
- 3 EL20.1の査読結果
- 4 大会準備委員会の新しい構成
- 5 日本英語学会賞の論文募集
- 6 学生会員の登録

## 20周年記念大会と新たな発展に向けて

会長 中島 平三

日本英語学会は1983年11月に上智大学において設立大会を開催して以来、今年で満20周年を迎えることになりました。それを記念する第20回記念大会を青山学院大学で開催できる喜びを、会員の皆様と共に分かち合いたいと思います。

本学会は、英語学および言語理論研究の発展に寄与することを目指して、1983年にその第一歩を踏み出しました。発足当時会員数は約700名でしたが、現在1700名を越えており、我が国で最大の英語学・言語理論研究の学会に発展して参りました。

発足以来大会の運営は、年1回、東京とそれ以外の都市で交互に開催することを基本としております。第6回大会(1988年)からConference Handbookが発行され、第9回大会(1991年)からはワークショップの企画が導入されるようになり、第12回大会(1994年)からは大会予稿集のJELSが刊行されるようになりました。また今回初めての試みとして、大学院生の運営によるスチューデント・ワークショップが導入されました。若い会員の主体的な参画が、本学会の活性化と将来にとって極めて重要であると考えからであります。

機関誌の*English Linguistics*は、創刊以来、全文英文で執筆され、投稿論文には全て丁寧なコメントをつけて返却することを特色としています。掲載論文の質を維持すると共に、若手研究者に論文執筆の教育的指導を行う点でも大きな役割を果たしてきています。発行回数は、1998年までは年1回でしたが、投稿論文数の増加に鑑みて1999年から年2回に増刊しました。それに伴い、編集委員以外の研究者にも審査に加わって戴く外部査読

制度を実施しております。さらに今年(第19巻)からは、33名の海外研究者をadvisory committeeに招き入れ、国際的に一層prestigeの高い専門誌となることを目指しています。

今回の20周年大会は、1992年の10周年大会に続く記念大会であります。例年より開催期日を1日増やして3日間とし、その間に魅力的なメニューを数多く用意いたしました。まず特別講演と特別ワークショップに参加戴くために、歴史言語学およびコーパス言語学のMatti Rissanen教授、認知言語学のRonald Langacker教授、生成文法理論のRichard Kayne教授の3名を招聘いたしました。3名の講師からはいずれも、大会参加の快諾を戴くことができ、厚く御礼を申し上げると同時に、本学会の国際的な認識の現れであると理解し、大変誇らしく思っております。第1日目(11月15日)に行われました特別講演には600名以上の方が参加され、大変盛況でした。第3日目(同17日)に特別ワークショップに参加戴くことになっております。

特別ワークショップとは別に、統語論、構文、音韻論、社会言語学、言語脳科学をテーマにした5つの特別シンポジウムが予定されています。3つの特別ワークショップと5つの特別シンポジウムにより、多様な会員の関心にお応えすることができるものと確信しています。

また設立20周年を記念して、日本英語学会賞を設定することになりました。獨創性・発展性に富む質的に優れた論文を顕彰するものであります。賞の設定は、学会を活性化する為にも、本学会が優れた研究を輩出していることを外部に知らせる上でも、またこれから活発化するであろう教員の第三者評価に対応する上でも、きわめて意義は深いものと思われまふ。学会賞の応募資格は、37歳まで、または大学院修士課程修了10年以内の者。投稿締め切りは毎年6月30日。授賞作は年1点まで。受賞者には賞状、記念品、副賞10万円が与えられます。若手研究者が競って応募され、この賞を真に価値のある、名誉のあるものに育てていって下さることを期待しています。また本学会の発展に寄与し、言語研究の進展に著しく貢献した業績に対して、日本英語学会特別賞を設置することも決めました。どちらの賞も来年度より実施致して参ります。

会員数はここ数年わずかずつ増えています。かつてのように数百人という単位で増えることは望めません。大学の英語学研究者がほぼ入会し、

安定期に入ったと言えます。しかし学会が活力と魅力を持ち続けるには、若い会員のエネルギーが不可欠です。会員の皆様には、若い研究者や院生に対して入会を奨励し、機関誌への投稿・大会での発表など積極的に学会へ働きかけるように推奨下さることをお願いいたします。特に大学院生には、各種の研究費や研究員への応募などに際して専門誌の論文発表が大きな意味合いを持っていますので、積極的に投稿することを奨励下さるようお願い申し上げます。また今年から科学研究費の申請に当たり、審査部門として言語学分科・英語学細目が新たに設けられました。これまでの英語学研究者の努力と研究実績が認められたものと大変喜んでおります。しかしこの審査部門は5年ごとに見直されます。英語学研究者が積極的に応募し、多くの成果を遂げ、今後も末永く継続することを切に願っています。

本学会が今後一層発展するには、学会の運営に絶えず工夫を凝らすと同時に、国の内外の関連学会とさまざまな形の連携を図っていくことが必要であろうと思います。英語学と関係するさまざまな専門学会、既存の言語学会、英文学会、認知科学会などの国内の学会ばかりではなく、海外、とりわけ近隣諸国の、同じ英語学研究を目的とする学会と交流を図り、学び合うことも、きわめて重要であります。例えば、東アジア地域における英語学研究の国際大会開催などを視野に入れることなどは、学会の国際化の上で十分検討に値するものと思われま。

大学は現在、国公私立を問わず、文部科学省の方針の元で、大きな「淘汰」の波にさらされています。大学間の再編統合、大学内部における学科・専攻の再編統合は、基礎学問領域、とりわけ文系の純粋学問領域にとっては大変厳しいものであります。大学院・学部組織の中で、英語学・言語学のポストを確保し堅持できるかどうかは、英語学研究的の今後にとっても、また本学会の将来にとってもきわめて重要なことでもあります。大学内部における英語学の組織上のあり方を再検討すると同時に、大学の内外で英語学研究・言語学研究的の「有用性」を示していく必要があります。有用性には、学術・文化にとっての学問的有用性は勿論のこと、教育や社会貢献などにおける応用的有用性も含まれます。英語学会としても、現在我々に突きつけられている試練に耐えられるよう、さまざまな方策を講じていく必要があります。皆様の積極的なご提案とご協力を心からお願い申し上げます。

本大会を開催するに当たり多くの方々のご多大なご尽力を頂いています。とりわけ特別講演・特別ワークショップのお世話を戴いている宇賀治正朋、

西村義樹、池内正幸の各先生には厚く御礼申し上げます。また記念大会の大任をお引き受け下さった秋元実治、山内一芳両先生をはじめとする青山学院大学の関係者各位に心から御礼申し上げます。この20周年記念大会が、活気のある、充実した大会となり、さまざまな難問に立ち向かう英気を蓄え、更なる発展に向けての第一歩となることを願っています。

＜第20回記念大会総会

(2002年11月16日)挨拶より＞

## 第21回大会のご案内

第21回大会は、下記の通り開催される予定です。

日時：2003年11月15日(土)・16日(日)

場所：静岡県立大学

(〒422-8526 静岡県静岡市谷田52-1)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。

応募される方は、2001年2月発行の会員名簿に記載されております応募規定を参照され、封筒に「研究発表応募要旨在中」と朱書の上、4月1日(火)(必着)までに下記へ郵送して下さい。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内 日本英語学会事務局

なお、一昨年12月に規定の一部が改正されました。第1項(応募資格)、第2項(発表内容)、第6項(発表要旨の枚数)、第7項(発表要旨以外の項目)、および第8項(応募締め切り日)については、下記をご参照ください。ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/>)にも掲載されていますのでご覧ください。

研究発表応募規定(改正部分のみ)

2001年12月16日改正

1. 発表者は日本英語学会の会員に限る。応募時に非会員の場合は、採用が決定した時点で会員になる必要がある。なお、複数名の共同研究の場合は、発表者以外の共同研究者に非会員が含まれていてもよい。
2. 内容は当該大会時点で未発表のものに限る。また、他学会に応募中の発表内容を本学会に二重に申し込むことはできない。
6. 応募者はA4用紙に発表内容をまとめ、4部提出する(コピー可)。発表内容は、日本語の場合、400字詰原稿用紙10枚(もしくはそれに相当する字数)以内、英文の場合は1行65ス

トローク×1ページ25行で8枚以内とする。参考文献表は上記枚数に含めず、別に付ける。発表要旨の冒頭に題名とキーワード（5つ程度）を記す。氏名・所属は書かず、本文でも応募者の名前を示唆するような書き方は避ける。

- 上記6.とは別のA4用紙に、論文題名・氏名（ふりがな）・所属・住所・電話番号・e-mailアドレス・審査希望分野（下記参照）を明記し、2部提出する（コピー可）。プレゼンテーション用機器の使用を希望する場合は、その旨、明記すること。審査希望分野は次の中から1つないし2つを選ぶ：
  1. 音声学・音韻論
  2. 形態論・語彙論
  3. 統語論
  4. 意味論
  5. 語用論
  6. 歴史言語学
  7. コーパス言語学
  8. 社会言語学
  9. 心理言語学
  10. 神経言語学
  11. その他。
8. 応募の締め切りは4月1日（必着）とする。

### ワークショップの企画募集

シンポジウムが大会準備委員会の企画であるのに対して、ワークショップは、会員の自主的な企画・運営によって、特定のテーマについて発表と自由な討論をしていただく場です。昨年の第20回大会におけるワークショップも皆様のご協力によりつつがなく行われました。本年の第21回大会でも11月15日（土）の午前9時30分から12時までをワークショップにあてる予定です。企画・運営を希望される方は、その主旨をA4用紙で2000字程度にまとめた企画書を5部作成（コピー可）し、連絡先を明記の上、3月31日（必着）までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「従来型ワークショップ企画書」と朱書して下さい。応募された企画は大会準備委員会が検討し、採用企画については6月の会費請求書類に同封して全会員にお知らせする予定です。ワークショップで発表をなさりたい方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

### Student Workshopについて

ワークショップをさらに活発にするために、従来型のワークショップと並行して、昨年からはStudent Workshopを新設いたしました。これは、大学院生（および大学院を終わった研究員・非常勤講師）が中心となって企画・運営するもので、一つの大学の中だけでなく、複数の大学にまたがる研究者の連携も可能です。各会場の参加人数を

50名程度に抑え、発表者と聴衆が自由に話し合えるようにします。発表者は院生ないし研究員・非常勤講師ですが、司会者には教員を加えることもできます。これによって、特定のテーマについて建設的な意見交換が行われるだけでなく、さまざまな大学に所属する院生の間で学問的な交流が深まることを意図しています。英語学に関わることなら理論や分野は問いません。原則として特別な審査は行わない予定です。応募希望の方は、A4用紙で企画書（ワークショップのタイトル、司会者と発表者の氏名・所属、1000～2000字程度の趣旨）を5部作成し（コピー可）、連絡先を明記の上、3月31日（必着）までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「Student Workshop企画書」と朱書して下さい。応募時に学生会員（もしくはそれに準じる人）であることが条件です。発表者と司会者の全員が決まっていなくても応募できます。採用された企画には、学会から1件につき3万円の助成金が出ます。採用企画については6月の会費請求書類に同封して全会員にお知らせする予定です。特定のワークショップで発表をなさりたい方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

### 理事会・評議員会より

- 2002年度収支中間報告について事務局財務担当書記から説明があり、理事会および評議員会において承認されました。
- English Linguistics* の advisory editoria board のメンバーとして、すでにEL19:1に掲載された33名に加え、S.-Y. Kuroda, Thomas Roeper, Joan Bresnanの3氏から承諾があり、EL19:2から掲載されることとなりました。
- 宮川幸久氏（お茶の水女子大学）と児玉徳美氏（立命館大学）の2氏の退任に伴い、評議員の補充が行われました。西尾道子氏（お茶の水女子大学教授）と佐野まさき氏（立命館大学教授）の2氏が推薦され、承認されました。また、平林幹郎氏（大東文化大学）の退任に伴う補充は行わないこととなりました。この結果、評議員は、2003年4月から102名となります。
- 監事の河西良治氏（中央大学）が本年3月で任期満了となります。2期4年の長期にわたり監事をお務めいただき、本当にありがとうございました。本年4月より、河西氏に代わって大庭幸男氏（大阪大学）に監事を務めていただくこととなりました。
- 本年度の第20回記念大会の日曜午後に開かれ

ました3つの特別ワークショップ“Anti-symmetry and Minimalism”, “Topics in Historical English Syntax”, “Conceptual Overlap in Grammatical Constructions”の内容が、開拓社より本年9月(予定)にSpecial Publicationとして刊行されます。この刊行物には、特別ワークショップのすべての発表や討論が集録される予定で、約三百ページです。20回大会の際にすでに購入を予約された方だけでなく、2003年8月末日までに申し込みをいただいた方には、予約特別価格3,500円(予約)で、ご購入いただけます。購入を希望される方は、「特別ワークショップ刊行物予約」と明記の上、住所、氏名、購入部数を電子メール(ejsj@egroups.co.jp)または葉書にて事務局までお知らせください。

6. これまで英語学会では、会長職とともに副会長職がりましたが、本年3月をもって副会長職が廃止されることとなりました。

### 編集委員会より

1. *English Linguistics* 第19巻2号が刊行されました。一般論文12編、N&D 1編、書評論文5編が掲載されています。会員のみならずには、昨年11月下旬に送付されました。
2. *English Linguistics* 第20巻1号に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。

	一般論文	N&D	書評論文
応募数	15	3	7
採用	4	0	6
不採用	11	3	1

なお、本年6月に発行される第20巻1号には、昨年11月の20周年記念大会での特別講演会(Rissanen, Langacker, Kayneの3氏)の論文が掲載される予定です。

3. N&Dの規程枚数が、8枚以内から12枚以内に改定されたことを前回の『え〜ごがく』(No. 37)でお知らせしました。一般論文及び書評論文の規程枚数についても、検討した結果、現行の35枚以内から40枚以内に改訂されました。なお、投稿時は40枚以内ですが、一次審査通過後の再投稿時は45枚以内となります。この新規定は、次回(2003年4月1日締め切り)の投稿から適用されます。ご注意ください。
4. 2003年11月発行の*English Linguistics* 第20巻2号の原稿締め切りは、2003年4月1日(火曜日)(必着)です。投稿の際は英文を吟味し、

2001年2月発行の会員名簿に掲載されている投稿規程および書式に関する注意事項を通読され、書式などを厳守して下さるようお願いいたします。特に論文の長さ(1頁25行、70ストローク以内で一般論文及び書評論文40枚、N&D12枚以内)については、規程違反が甚だしい場合、内容のいかんに関わらず不採用となりますので、十分ご注意ください。

5. 最近、Notes and Discussionの性格を十分に理解していないことにより、不採用となる応募論文が散見されます。N&Dは一般論文と異なり、(1)必ずしも完全な解決策が提示されていなくてもよいが、(2)これまで指摘されていない面白いデータを指摘しているか、あるいは、(3)理論に関する新しい切り口を提案しているものが高い評価を受けます。そのような主旨を理解した上で、奮ってご投稿下さい。

### 大会準備委員会より

1. 昨年12月より大会準備委員会の構成は次の通りとなりました。
- (委員長) 安井泉  
(副委員長) 八木孝夫  
(委員) 酒井弘, 佐野哲也, 佐野まさき, 田中智之, 早瀬尚子, 山口治彦(以上留任), 杉岡洋子, 田中伸一, 坪井栄治郎, 松木啓子, 古賀啓介(以上新任)
2. 第21回大会のシンポジウム企画については、現在準備が進行中です。詳しい内容は次号でお知らせできる予定です。
3. *JELS 20*は現在、第20回大会準備委員長、影山太郎氏が中心となられ、その編集をいただいています。第20回大会で購入の申し込みをいただいた方々には、3月末に発送できる予定です。

### 第20回記念大会の報告

第20回記念大会は、2002年11月15日(金)~17日(日)の3日間、青山学院大学(青山キャンパス)において開催されました。本大会では、3つの記念講演、5つの特別シンポジウム、3つの特別ワークショップ、27の研究発表、9つのワークショップが行なわれました。金曜日の特別講演会には650名の参加者、土曜日、日曜日の大会には944名の参加者があり、盛会裡に終えることができました。また、会場で新入会の手続きをされた方が29名ありました。さらに*JELS 20*に対して308名の方が購入の申し込みをされ、本年9月発行予定の特

別ワークショップSpecial Publication)に対して214名の方が購入の申し込みをされました。各出版社から今年も書籍の展示をしていただき、本大会では31社もの展示がありました。大会運営を支えてくださった会場校の先生方や大会準備委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も多数のアンケートをいただきありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

## 「日本英語学会賞」論文募集のお知らせ

日本英語学会は、学会設立20周年を記念し、若手研究者の育成と研究活動の促進を目的として、平成15年度から「日本英語学会賞」(以下「学会賞」という)を設けることとなりました。つきましては、第1回(平成15年度)の「学会賞」論文を以下の要領で募集しますので、奮って御応募下さい。

応募資格：締切日の時点で37歳以下、または大学院修士課程修了10年以内の日本英語学会会員。

内 容：論文は、主に英語の共時的・通時的研究、言語の一般理論に関する研究、または英語と他言語(特に日本語)との比較対照研究などを扱うものとする。

対 象：独創性・発展性に富む未刊行論文。授賞の対象は原則として年度1篇以内とするが、佳作も表彰の対象とする。受賞論文(佳作論文も含む)は、学会誌 *English Linguistics* に掲載される。

表 彰：受賞者に対しては、賞状とともに、記念品と副賞(10万円)が総会で贈呈される。また、佳作に対しては賞状とともに記念品が贈呈される。

枚数・書式：*English Linguistics* の一般論文の投稿規定に従う。

応募方法：原稿は5部(コピーで可)を略歴および業績一覧表1部とともに、日本英語学会事務局(〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5 桐原書店内)に送付する。封筒の表に「学会賞投稿論文在中」と朱書する。原稿は返却しない。

締 切：平成15年6月30日。

結果通知：選考結果は遅くとも9月中旬までに応募者に通知する。

「学会賞」の応募に関する細目は、日本英語学会事務局のホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>)でご覧下さい。応募に関するお問い合わせ

わせは、日本英語学会事務局(elsj@egroups.co.jp)までお願い致します。

なお、学会の活動に寄与し、言語研究の進展に著しく貢献した業績に対して、理事会の推薦をもって、日本英語学会特別賞を授賞することとなりました。

## 「大学英語教科書協会」

### ホームページ立ち上げの御案内

会員の皆様は、大学での英語教科書等で、「大学英語教科書協会」をすでによく御存じのことと存じます。さてこの度、この協会のホームページ

が立ち上がり、協会全社の教科書の案内、検索、見本請求等で一層の便宜がはかられることとなりました。また、協会各社のホームページにリンクしていますので、そこから研究書の案内もご覧になれます。そのホームページのアドレスは以下の通りですので、どうぞ御利用下さいませ。また、会員名簿にメールアドレスを記載しておられる方には「大学英語教科書協会」からその案内を直接送付していただきますので、御利用いただければと存じます。

アドレス：<http://www.daieikyo.jp>

\*\*\*\*\*

#### 「大学英語教科書協会」会員社一覧

朝日出版社・郁文堂・英光社・英潮社・英宝社・開文社出版・桐原書店・金星堂・研究社・三修社・松柏社・成美堂・音羽書房鶴見書店・南雲堂・北星堂書店・弓プレス

### 事務局より

1. 2002年度の学生会員の方には、3月末に日本学会事務センターから「学生会員調査カード」をお送りいたします。2003年度も学生会員としての登録を希望される方は以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了直後に2003年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきますので、申告期限を厳守して下さい。それ以後に申告されても2003年度中は学生会員への変更はできませんので御留意下さい。

◇ 申告資格：「学生」の意味を広義に解釈し、研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生もこれに含まれるものとします。

◇ 申告期間：4月1日より4月25日（必着）

◇ 申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を明記した用紙に、4月以降(も)学生であることを証明するに足る次のいずれかの書類を添付して、下記宛に「学生会員登録希望」と朱書の上郵送して下さい。

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教官（あるいはそれに類する立場の教官）より必要に応じて説明の言葉を書いてもらい、それに署名（捺印）していただいたものを提出して下さい。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

日本学会事務センター

「日本英語学会」担当係

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教官（所属明記）の署名（捺印）[必要に応じて説明の言葉を加える。]

いずれの場合にも必ずしも別紙を用いる必要はなく、また、封書によらず葉書でも結構です。なお、申告された後でも、申告期間内に事情の変更が生じた場合には、上記宛先までお申し出下さい。なお、上記の件で何か不明な点がございましたら事務局までご連絡下さい。

2. 今年度の会費をまだ納入しておられない方は、日本学会事務センターから送られました振込用紙で、至急納入して下さいますようお願いいたします。会費を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いとなりますので、ご注意下さい。

### 編集後記

20周年記念大会を無事、そして盛会裡に終えることができ、事務局一同、安堵しております。これも会員の方々の御協力のおかげと一同感謝しています。また、機関紙 *English Linguistics* の年2回の発行も無事終えることができ、嬉しく思っています。どうぞ来年度も一層の御協力をよろしくお願いいたします。

なお、中島会長のもとでの事務局もあと1年あまりとなりましたが、来年度の事務局長は瀬田が担当し、構成メンバーも一部代わります。これまでと同様、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(高見，瀬田，長谷川，本間，松山)

---

2003年1月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 中島 平三

発行所 日本英語学会

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内

電話(03)3314-8181

---

**R70**

古紙配合率70%再生紙を使用しています